

2.6.3 試験結果

図-2.6.3 から図-2.6.18 に、各試験車両通過時の橋梁各部の応答波形を示す。また、図-2.6.19 から図-2.6.22 に条件ごとの比較を示す。主桁の応答（たわみ、ひずみ）については、車両振動に伴う動的変動の影響が応答波形に顕著に表れている。一方、床版のひずみについては、影響線形状が鋭く、計測位置直近を車輪が通過するときだけにだけ大きく応答するため、主桁の応答波形とは異なり、波形の形状を見る限りでは、車両としての振動の影響が表れにくいことがわかる。

図-2.6.23 から図-2.6.26 に、各試験車両通過時の橋梁各部の応答の最大値を比較した結果を示す。主桁の応答に関しては、車両総重量の大きいケースほど、応答の最大値が大きくなる傾向がある。床版の応答に関しては、3 回実施した同一ケースのデータ間でも値に違いが見られる場合があるように、ばらつきが大きくなっているが、軸重の大きな車軸を有するケース、近接する車軸の軸重の和が大きくなるケースにおいて、応答の最大値が大きくなる傾向があることがわかる。